

令和 8 年度宮城県小児在宅医療講演会および実技講習会に参加しました (2026/7/19)

テーマ：小児在宅医療、災害対策、人工呼吸器管理、個別避難計画、非常用電源
会場：仙台医療センター 3 階 大講堂・大会議室

2026（令和 8）年 7 月 19 日（日）、仙台医療センターにおいて、宮城県主催による「令和 8 年度宮城県小児在宅医療講演会」と、宮城県小児在宅医療協議会主催による「実技講習会」が連続して開催され、災害公衆衛生学分野の遠山裕湖特任准教授（客員）と、上廣防災学寄附研究部門の高橋利恵子助手が、グループワークファシリテーターとして参加しました。

午前の部の講演会では、「災害対策」をメインテーマに据え、当事者のご家族や医療従事者、支援者による多角的な視点からの講義や質疑が行われました。冒頭の講演では、東日本大震災を経験されたご家族による講演や、被災当日からの支援状況に関する話題提供が行われ、当時の切実な状況が共有されました。

続くグループワークでは、「災害時に小児在宅医療患者のいのちをどう守る？」と題し、参加者間で活発な意見交換がなされました。

午後のセクションでは、「小児在宅医療の栄養管理」について、経腸栄養と、胃瘻の造設方法とトラブル対応についての講演と、在宅人工呼吸器装着者の避難訓練の実例や仙台市独自で行っている災害時個別計画（パーソナルプラン）の策定事例、さらには非常用電源の確保や指定福祉避難所の必要性について、具体的な手法や課題についての講義が行われました。

講演会に続いて開催された実技講習会では、災害時を想定した電源を必要としない医療手技や機器の取り扱いに重点が置かれました。参加者は以下の項目の実技講習を医師や専門家の指導のもとで行いました。

- ・手動式吸引器/足踏み式吸引器の操作習得
- ・バッグバルブマスクによる手動式人工呼吸器の設定再現
- ・近隣で電源を貸し出してくれる「電源ドナー」の紹介
- ・ポータブル電源の体験
- ・内部バッテリーを持つ濃縮型在宅酸素機器や酸素ポンベの扱い

また、在宅医療機器の実際の消費電力やそれに対応できる電源への変換などについて専門家からの実演と共に解説があり、災害時の電源の確保だけでなく、変換の必要性や使用時間の実際まで確認し災害時の医療機器の動作に関する課題について議論しました。

本イベントには多くの医療関係者や行政担当者が参加し、小児在宅医療における災害時対応の重要性について認識を深め、実技による実践的スキルを習得しました。

文責：高橋利恵子（上廣防災学寄附研究部門）
（次頁へつづく）

令和 8 年度宮城県小児在宅医療推進事業「小児在宅医療実技講習会」

日 時：令和 8 年 7 月 19 日（日） 10 時～17 時

場 所：仙台医療センター3 階 大講堂・大会議室

仙台市宮城野区宮城野二丁目 11 番 12 号 駐車場あり（無料）・JR 宮城野原駅

主 催：宮 城 県

小児在宅医療の栄養管理・災害対策

開会のごあいさつ

東北大学大学院医学系研究科 小児病態学分野教授 菊池敦生先生

講 演 1 「東日本大震災を生き抜いた経験」

ご家族（石巻市大街道在住）新田理恵さん

講 演 2 「東日本大震災被災当日からの支援」

あおぞら診療所ほっこり仙台院長 田中総一郎先生

講 演 3 「外科系疾患における東日本大震災時の状況」

仙台エコー医療療育センター院長 天江新太郎先生

グループワーク「災害時に小児在宅医療患者のいのちをどう守る？」*

日本小児神経学会災害対策委員会（鳥取大学医学部脳神経小児科）中村裕子先生

講 演 4 「在宅人工呼吸器装着患者の個別避難計画・避難訓練の実際」

障害者総合支援センター（ウェルポートせんだい）、仙台市太白区役所高齢障害課

講 演 5 「医療的ケア児者の電源確保・非常用電源」

仙台医療センター診療技術部 松田恵介先生

講 演 6 「医療的ケア児者の災害時避難」

仙台医療センター小児科医長 木村正人先生

<小児在宅医療の栄養管理>

講 演 7 「在宅経腸栄養」

仙台エコー医療療育センター院長 天江新太郎先生

講 演 8 「胃瘻の造設方法とトラブル対応」

宮城県立こども病院外科部長 櫻井 毅先生

<実技講習>

実 技 1 「人工呼吸管理：バックバルブによる手動式人工呼吸管理」

実 技 2 「在宅酸素療法：内部バッテリーのある濃縮型在宅酸素機器、酸素ポンベの扱い方」

実 技 3 「喀痰吸引：手動式吸引器・足踏式吸引器」

実 技 4 「電源ドナー」

実 技 5 「ポータブル電源体験」

開催プログラム